

I Love Churui

I ♥ ちゅうるい

11

2017 Vol. 510



忠類産長芋収穫終了!

今年度から新しく7戸の農家で長いもの栽培をはじめ、11月6日から収穫作業がはじまり、11月17日に収穫作業を終了することができました。



<http://www.ja-churui.com>

Contents

農協法公布記念日にあたって	2
南十勝4町村和牛学習会開催	3
コンプライアンス研修会	4
酪農部会「バイオマス研修会開催」	5
ベジタ閉店イベント	6
JAグループ通信	7
普及センター技術情報	8
生乳生産状況表	9



農協法公布記念日にあたって

北海道農業協同組合中央会

会長 飛田 稔章



昭和二十二年十一月十九日に農業協同組合法（農協法）が制定され、今年で七十年を迎えました。

戦後の食糧不足の混乱期に、農業者の協同組織の発達を通じ、「農業生産力の増進」と「農業者の経済的社会的地位の向上」を図り、国民経済の発展に寄与することを目的として、農協法が制定され、農協が設立されました。

農協は「農業者による農業者のための組織」であり、協同組合原則に掲げる「自主・自立」「民主的運営」の基本に立ち、相互扶助の精神のもと、幾多の困難な状況を乗り越え、組合員の皆様の営農と生活の安定並びにより良い地域社会の実現を目指し、総合事業を展開しながら今日に至っております。

言うまでもなく、農協法は農協の組織・事業を運営する基本法として極めて重要な役割を担っておりますが、農協法公布記念日を契機に、組合員・役職員の皆様と改めて協同組合の原点に立ち返り、その意義と役割についての共通認識を深めたいと考えます。

組合員・役職員の皆様には基本的な話になりますが、協同組合は個人あるいは中小の事業者等が共通する目的のために自主的に集まり、その事業の利用を中心としながら、民主的な運営や管理を行う営利を目的としない組織です。協同組合は十九世紀にイギリス・ドイツ等ヨーロッパで始まり、世界各地に広がりました。現在では日本を含め世界の多くの国々で多くの協同組合が活動を展開しております。

世界の協同組合の連合組織であるICA（国際協同組合同盟）には、現在で百ヶ国以上が加盟しており、関連する組合員数は世界全体で十億人、事業高は二十九兆円にものぼります。

わが国では、協同組合の組合員数は六千五百万人、事業高は十六兆円、店舗・施設数は三万五千六百ヶ所もあり、正に地域のインフラを形成している組織と言えます。

協同組合は、民主主義を基礎とした事業運営や活動を通じて、経済的・社会的な側面で人々の生業と生活の向上と課題解決を大きく助ける役割を担っております。例えば安全・安心で豊かな食品と生活に役立つ購買品の生産と供給、地域の豊かな暮らしと経済活動のために寄与する金融事業、総合的な暮らしの保障のための共済事業、健康な日常生活を営むための医療・福祉事業のほか、広く地域社会に貢献するための様々な社会的取り組み等がその一例となります。そして地震や風水害による大規模災害が発生した際にも、各協

同組合が物資の支援、ボランティアの派遣、募金活動等を展開することにより、被災地域の復旧・復興支援に大きな役割を果たして来ております。

このように協同組合は日本の社会と地域の人々の暮らしのために、永年に亘って多くの分野でその役割を発揮してきているのです。ユネスコは協同組合の存在価値を評価し、昨年十一月三十日、エチオピアのアディスアベバで開催された無形文化遺産保護条約第十一回政府間委員会において、「協同組合において共通の利益を形にするという思想と実践」のユネスコ無形文化遺産への登録を決定しました。

決定にあたってユネスコは、協同組合を「共通の利益と価値を通じてコミュニティづくりを行うことができる組織であり、雇用の創出や高齢者支援から都市の活性化や再生可能エネルギープロジェクトまで、さまざまな社会的な問題への創意工夫あふれる解決策を編み出している」としています。

また、「無形文化遺産」とは、「世代から世代へと伝承され、文化の多様性及び人類の創造性に対する尊重を助長するもの」とされています。

農業協同組合も農業を生業とする農業者および地域住民の集まりによる協同組合です。北海道農業は開拓以来、親から子、孫へと連鎖と受け継がれた国民の健康と命を守るといふ社会的使命を担って発展して参りました。合わせて、地域農業の振興は、地域の環境・文化・福祉への貢献を通じて、皆が安心して暮らせる豊かな地域社会を築いて参りました。

農業協同組合に集う組合員、役職員の皆様はこのように世界的に評価され、社会的意義のある協同組合の仲間であることを誇りとし、協同活動の輪（道民550万人サポーターづくり）を広げて頂きたいと考えております。このことが新自由主義経済への対立軸としての協同組合の存在意義を高め、永年に亘り先人が築き上げた地域農業並びに地域社会の基盤をさらに発展させ、後世にしっかりと引き継がれ、持続可能な農業へと繋がるものと確信しております。

最後になりますが、JAGグループ北海道は、協同組合の理念と精神を事業の根幹とし、今後とも組合員の皆様と希望を持って営農と生活が続けられる環境を整えること、地域農業とJAの発展に全力でサポートすることを誓い申し上げ、農協法公布記念日にあたってのメッセージと致します。

忠類和牛改良組合「南十勝4町村和牛学習会」開催!

毎年、南十勝4町村（更別、大樹、広尾、忠類）和牛改良組合持ち回りで開催をしています『南十勝4町村和牛学習会』を、本年は当和牛組合が当番となり、十一月七日にJA忠類研修室を会場に開

催されました。

学習会には、各町村より総勢約四十名の生産者及びJA職員に参加をいただきました。

講師には、十勝農協連より酪農畜産課山中主幹、北海道立総合研究機構畜産試験場より佐藤専門研究員、ジェネティクス北海道より改良部廣瀬課長、道央種雄牛センター小林主任をお招きし、主に九月に開催された宮城全共に関する内容を中心にお話しをいただきました。

講義の中では、改めて全共の成績の紹介や写真スライドによる全共期間の出品団の様子、全共に向けた具体的なこれからの取組などの他、若雄を出品されたジェネティクス北海道より第一区の全共までの取組、また畜産試験場より全共で見えた肥育技術の課題点など、とても興味深い内容

の講義であり、参加者も聞き入っていました。

お忙しい中、今回ご講義いただいた四名の講師の方々には、大変お世話になりました。

学習会終了後、このみ食堂に場所を変え、講師の方々を交えて昼食交流会が行われました。

この日用意したすき焼きには、忠類産黒毛和牛を使ってもらい、食べて頂き、交流会の最後には次回当番組合であります大樹町和牛生産改良組合の鈴木英博組合長に締め挨拶をいただき、盛況で終えることができました。

お天気カレンダー

気象予報士(株式会社ハレックス) 榎山靖洋

縦じまの天気図

テレビの気象情報では、天気図で気圧配置の解説をすることがあります。その中で、最も一般に広く知られているといってもいいのが「冬型の気圧配置」ではないでしょうか。大陸に高気圧、日本の東に低気圧、西高東低となり、等圧線は縦に数多く並びます。冬は、この縦じまの天気図になることが多いです。

冬型の気圧配置になると、全国的に北西の風が吹き寒くなります。日本海側は雪が降り、太平洋側は晴れの天気となります。暖冬傾向の冬は、等圧線が縦じまに並ぶことが少なくなり、寒い日が少なく、日本海側の雪の量も少なくなり、横じまになります。等圧線が横になつて並び、横じまになることもあります。冬の典型的な形から外れているということで、私はこれを「よこしまな天気図」と呼んでいます。





平成二十九年年度コンプライアンス研修会開催

十一月二十日、JA忠類研修室において、JA北海道中央会帯広支所次長、山本勝博氏を講師に招き、役職員を対象に「コンプライアンス研修会」を開催致しました。

今回の研修内容は、以下の通りです。

- 「JAバンクルールの見直し」
- 各事業に精通した専従職員を複数名配置や資格保有の必須化等内部監査体制の見直し。
- 審査・担当部署と営業部署の



組織的分離等、貸出審査体制の見直し。

・会計監査人設置義務のないJAが対象に会計監査人監査に代わる監査代替的調査の実施・検討等JA経営を巡る情勢について説明がありました。

また、最後に当JAのコンプライアンスマニュアルより「役員員の行動規範」を確認し、コンプライアンスの重要性を職員一同再認識した研修会となりました。



JA忠類青年部活動報告 農薬空き容器回収

JA忠類青年部（部長東口雄次）は十一月一日（水）に農薬空き容器回収を実施しました。

農薬空き容器回収は年に一度環境改善整備として行われており、七名の部員が集まりました。

今年度より青年部員の減少に伴い搬入先が各農事組合長宅から南十勝倉庫へと変更となり、組合員の皆様には、大変ご不便をおかけしましたが、プラスチック、段ボール、ビン、カンそれぞれに分別を行い、無事午前中に終わるこ



とことができました。

今回、回収にご協力いただきました組合員の皆様ありがとうございました。

次年度以降同様の回収時期と内容で実施していきたいと考えていますので今後もご協力をお願いします。

新採用職員紹介 よろしくお願ひします！



経済部購買生産資材係

西川 聡

十一月一日付採用

バイオマス研修会開催される！JAと忠類酪農部会共催

十一月二十九日、JAと酪農部会共催によるバイオマス研修会が開催されました。

本研修会は平成二十八年度に実施された幕別町の酪農家に対する意向調査の結果を受け町内三地区において強会を開催してりましたが、忠地区においては、数戸の酪農家がバイオガスを施設を希望する意向を出されており、それに対し希望する酪農家だけでなく地区全体で知識を深める目的で今回開催しました。



講師には別海バイオガス発電株有田博喜所長とバイオマスリサーチ株竹内良暉常務取締役をお招きしました。

有田所長からは『バイオガスプランの導入・運営について』講演いただきました。

別海バイオガス発電株は国から地域バイオマス産業化整備事業補助金を受け事業開始されており、平成二十七年七月より操業を開始している。

会社は三井造船、別海町、二JAの投資で構成されており一日当たりの受入量は285トで、内訳はスラリーが20%、堆肥80%となっており特徴的なのは堆肥を使用し、他のプラントが中温発酵(37℃前後)なのに対し高温発酵(55℃)することによりガスの発生を増加させ発電量を増やす事にあり、また、廃熱を利用し消化液や再生敷料を加熱殺菌することにより、雑草種子の不活化や菌の死滅により酪農家からも大変好評を頂いているとの事でした。バイオマスリサーチからはアンケートの集約結果と現在想定される規模での試算について説明されました。

万一に備えよう わが家の防災

大掃除と災害対策

災害危機管理アドバイザー 和田隆昌

年末が近づくと、多くのご家庭で一齐に大掃除が行われると思います。家具を動かすこの時期に、災害対策の見直しをやってみてはいかがでしょうか。

2016年の熊本地震では、人的被害の発生した木造家屋を検証すると、そのほとんどが1階部分の倒壊によるものでした。これは木造家屋は2階部分の重量によって家屋が倒壊してしまうためであり、実際の現場を見ても明らかでした。

で、家屋の耐震性が大きく損なわれることになることも知っておきましょう。事前に2階の荷物の整理をやっていたために倒壊を免れた、という事例も存在します。断捨離が命を救うということもあるのです。

耐震性が低いと考えられる2階建ての木造家屋では、なるべく寝室を2階に配置するよう指導するのはそのためです。また、2階に重量のある書庫などの荷物を詰め込むこと

過去の大きな地震発生時には、家具が凶器となつて人に被害をもたらすケースが数多く発生しています。家具の配置換え、固定などの見直しなど、まずは寝室だけでもやっておくことが家族の安全を図るのにとっても有効です。さらに大切なのが避難経路の確保です。地震や火災の発生時に、廊下や玄関、またはベランダなどに退路をふさぐような荷物があると避難が遅れ、生死に関わります。マンションなどの集合住宅では玄関へと避難できない場合、ベランダ方向の避難経路も必要です。先日、消防士さんとの会合の中で「火災現場で被害が大きくなる家は、荷物が整理整頓されていない家が多い」というお話を聞きました。コンセントなどにほこりがたまることで、火災が発生することもあります。年末に限らず、日々の整理整頓は災害被害から身を守ることにつながることを知っておきましょう。





今年度の営業が終了いたしました。

J A 忠類農畜産物直売所「菜の館ベジタ」

J A 忠類農畜産物直売所「菜の館ベジタ」の今年度の営業が、平成二十九年十一月十二日（日）をもちまして終了となりました。

最終日には、地元産の野菜を使って、キタアカリとさつままいものあげいもや、ゴボウの唐揚げを来場者へ振る舞いました。また、「乳製品消費キャンペーン」として牛乳の無料配付も行い、多くのお客様に喜んで頂けた事と思います。

今年度は四月二十九日のオープンから約半年の営業でしたが、昨年の台風の影響から春先の野菜の入荷不足でお客様には大変ご迷惑をおかけしましたが、生産



者さんのご努力のおかげで夏頃には多くの野菜が出荷され、年に数回開催したイベントでも多くのお客様にご来店頂きました。平成十九年にオープンし、今年で丁度十周年を迎えた「菜の館ベジタ」ですが、地元の方をはじめ、近隣市町村やキャンプ等に訪れた遠方からのお客様にも立ち寄っていただける店になり、地域に根付いた直売所となってきたように思います。

来年度の営業は四月下旬を予定しております。来年度も多くのお客様にご来店していただけるよう、生産者とともに職員一同努力して参りますので、今後引き続きよろしくごお願い申し上げます。

ストップ！ 農作業事故

農閑期にやるべきこと（1）

人間工学専門家 ● 石川文武

かつては、農繁期とか農閑期という言葉が使われていましたが、農閑期とは、土地利用型農業を念頭に置いた言葉にすぎません。畜産や施設園芸では基本的に農閑期はありません。ここでは農閑期を「農作業をしない時間」と捉えましょう。すなわち、体を使った農業はしないけれど、頭脳は農業をしていることになりま

す。サラリーマンでいえば、仕事をせずにたまった疲労の回復と次に備えた準備の時間といえるでしょう。農作業をしないときに取り組んだ方が良いことの筆頭は、ご自身や家族の健康確認です。1年に1度時期を決めて健康診断を受けましょう。気になる症状がないときに健診を受けておけば、異常を感じたときに健康時とのデータ比較ができるので、治療の必要性などが判断できま

す。また、健診時に小さな異常が見つかったときにはその治療は時間も短く経費も少なくすることが可能です。異変を放置し、我慢できなくなつて受診したら、がんのステージ4ですということにもなりかねません。体の健診とともに、農繁期になったら活躍してもらおう農機具の点検も行いましょう。消耗品の定期交換、

重要部の点検整備などを点検マニュアルに従って行いましょう。これを無視すると、一番忙しい時期に故障発生ということにもなります。環境の点検も大切です。

これらの健康診断や農機具、環境の点検を無駄な出費と考えて実施しない人もいますが、いざ「おかしい」というときにどのような出費と時間の浪費になるかを考える時期でもあります。安全投資がこれから先の支出削減に役立っていることが理解できれば、あなたの安全は確保されます。安全安心を侮ってはいけません。安全安心は自分で「創る」ものです。現代は、インターネットなどいろいろな情報を手で取り、それを分析・アレンジすることによって、今後の農作業計画の役に立てることが出来ます。ご自身または周囲の過去の安全安心対策の事例や効果などをデータとしてまとめておけば、問題発生時の解決策も見つかりやすいでしょう。



JAグループ通信

JAグループの連合会・中央会の活動内容を紹介します。
JA北海道大会決議事項の実践やその時々のトピックスなど、組合員の皆様様に定期的にお伝えします。
各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。

JA北海道中央会

【北大との連携協定を締結】

JAグループ北海道と北海道大学は、食と農を中心とする幅広い分野の科学技術・学術及び産業の振興、教育の発展を目的とした包括連携協定を締結しました。

農業・農村を取り巻く様々な課題に対応するため、北海道大学と共に、先端技術を活用した農業生産、道産農畜産物の価値創出、地域社会づくりや人材育成などの面で連携・協力関係を築きながら「力強い農業」と「豊かな魅力ある農村」の実現を目指します。



JA北海道信連

JAバンク北海道は、家族や周囲の人へ伝えたいことを書き残す「エンディングノート」のセミナーを初開催しました。(10月・札幌市) 行政書士の山根氏が相続・遺言の仕組み等を解説後「エンディングノートは遺言書を作る準備にもなる」とJAバンク版エンディングノート「いまから帳」の書き方を紹介し活用を呼びかけ、「大変参考になった」等、参加者にご好評いただきました。



ホクレン

北海道の味覚を一堂に集めた毎年恒例秋のイベント「2017第46回ホクレン大収穫祭」を札幌三越本館で開催しました。生産者の方々の営農へのこだわりを消費者に知っていただくとともに、消費者の方がどんなことを生産者に望んでいるかを知りあう場として、交流イベント「食と農のふれあい広場」を開催。JA道青協、JA道女性協の役員の皆様のご協力もあり、どのイベントも大盛況でした。



JA共済連北海道

10月より、地域貢献活動の一環として組合員や地域住民の皆さまにJA共済のロゴ入り反射材付き帽子5万個を配布しています。夜間でも運転者が歩行者を視認しやすくすることを目的に全道JAを通じて順次配布し、交通事故未然防止と根絶を呼びかけます。

今後も組合員や地域住民の皆さまが安心・安全に暮らせるよう、地域貢献活動に取り組んでまいります。



JA北海道厚生連

組合員ならびに地域住民の皆様の生命と健康を守るため、本会事業の積極的な啓蒙推進を図ることを目的として、広報誌「すまいる」を発行しております。年3回発行しており、様々な医療・健康情報を発信しております。

ホームページにもバックナンバーを掲載しておりますので是非ご一読ください。





牛の生活時間を見直そう

タイムバジェットという概念があります。生物が要求する1日あたり行動時間で、生活時間割のようなものです。家畜とはいえ、牛も生物として、この時間割で生活をする性質を持っています。

近年の研究で、乳牛のタイムバジェットが一日の乾物摂取量を左右すると注目されています。もちろん、牛の採食量は粗飼料品質に大きく影響されます。しかし、エサの品質や供給量に問題はなくても残飼が発生したり、牛体や乳検データに採食量不足の兆候が現れるなど、計算どおりの採食量に到達していないと推測される場面もあります。

食べる量が少なくなる原因として、「食べる時間が少ない」ということは考えられないでしょうか？

搾乳を含めた管理作業で牛の採食行動を妨げる時間は意外な所で存在し、それを合計すると、1日の中では数時間になるケースもあります。「外仕事」が少ない冬期間、このタイムバジェットを意識して現在の牛群管理を見直してはみませんか？

牛の行動上の要求時間

表1は、牛のタイムバジェットの研究です。フリーストール管理でのデータですが、繋ぎ飼いで、基本的に牛の要求時間は変わりません。この時間割がゆがめられると、乳量が影響を受けます。

採食量に直結するのは、採食時間ですが、それには休息時間が密接に関わることがわかってきます。事実、牛が1日の中で最も多くの時間を費やすのは休息時間なのです。

休息時間の要求と生産性

牛は、体を横たえて座る横臥行動に明らかな要求があります。横臥時は、牛に不可欠な休息と反芻行動に重要な時間です。試験的に運動スタンションなどで数時間の拘束後に解放される

表1 乳牛の基本的行動要求時間

1日の行動(24時間中の時間)		
採食	3~5	
横臥・休息	12~14	
歩行、闘争、発情など	2~3	
飲水	0.5	

Grant と Albrit 2000

と、採食より休息を選択する牛が多いそうです。このことから、採食より休息の優先順位が高いと考えられます。つまり、「ゆつくり座れないなら食べる時間が減る」可能性があるのです。

フリーストールでも繋ぎ飼いで、構造や安楽性に問題ある牛床は、採食せずに立つ時間が増える傾向があります。休息時間が1日あたり1時間減少すると日乳量が1~1.7kg減少するといわれています。牛床はクッション性の保持と牛体をキズつけないことを常にチェックし、問題は高い優先順位で改善すべきです。

管理作業と牛の行動を再考する

エサを食べる採食時間、栄養の消化・吸収が進む休息時間は、どちらも1日の最大値にしたいものです。牛の行動時間を1日の配分割合で示すと図1のようになります。

24時間のうち、牛が必要とする生活

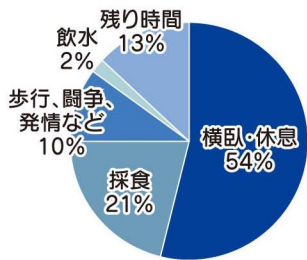


図1 乳牛の行動1日時間配分

時間は、87%で13%が残ります。24時間の13%は約3時間です。理想的に

は、牛の拘束時間は1日3時間以内といえます。管理作業の手法・タイムリングによっては、牛の拘束時間が増大し、採食・休息行動を阻害することもありえます。現在の管理上に、牛が「休息も採食もできない時間帯」は存在しませんか？

- ・ パーラー搾乳で待機室にいる時間が長い
- ・ 牛を待たせての飼槽の清掃
- ・ 放牧、パドック管理で牛舎への出入の際、牛を待たせる
- ・ 飼槽に牛が並んでいてエサがない時間帯があるなど。

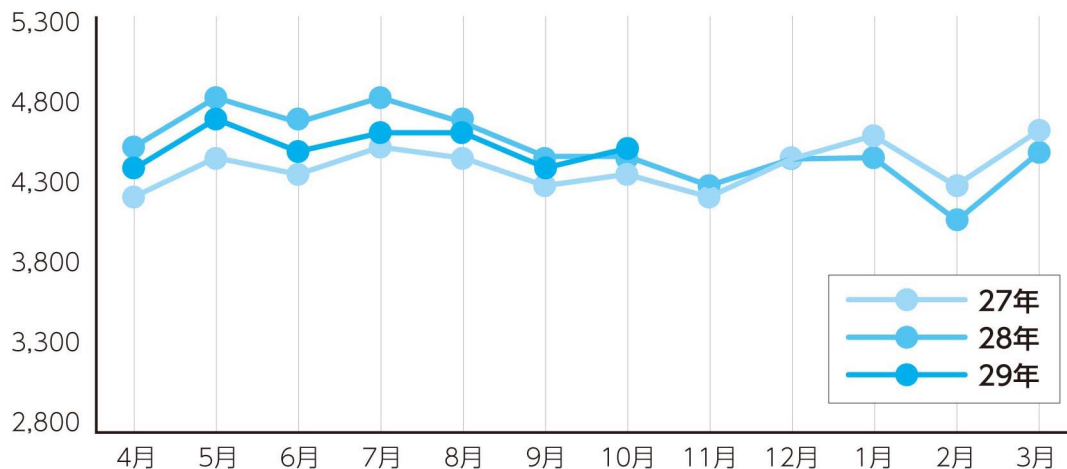
座れない、食べれない...



大規模な搾乳牛群では、パーラー前の待機時間の拘束になります。群ごとに最後の牛が搾乳されるまでの待機時間が1時間以内になる1群頭数としたいものです。

牛がパーラーから戻ったら、新鮮なエサが飼槽にある管理が理想です。牛が休息も採食もできない時間を今より短縮するための作業手順を家族、作業で相談してみませんか。

生乳生産状況表



ホクレン十勝家畜市場だより



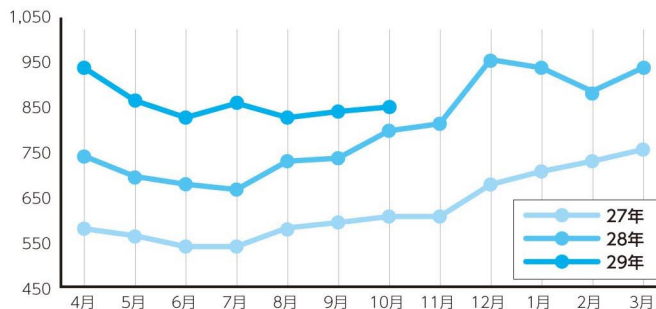
乳牛

- 売買頭数：678頭 (成立80.5%)
- 平均価格 (税込)：860千円 (先月比8↑、前年比53↑)

相場予想

先月の平均価格は、府県、道内ともに購買意欲が堅調であったため、強含みで推移しました。今月も購買意欲が高く、平均価格は横ばいなし強含みで推移すると考えられます。

乳牛市場〈初妊牛〉平均価格の推移



黒毛和種・F1

結果速報

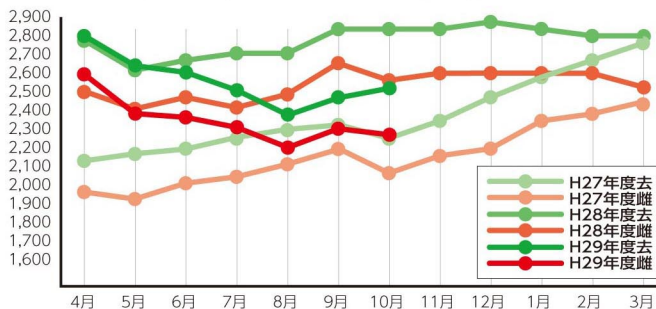
● 売買頭数

- 黒毛和種去勢 **899頭** (成立90.3%)
- 乳用交雑種去勢 **1,002頭** (成立97.0%)
- 黒毛和種雌 **635頭** (成立87.8%)
- 乳用交雑種雌 **1,319頭** (成立98.7%)

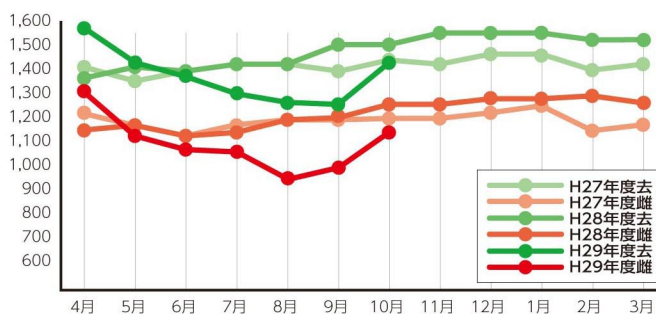
● kg単価

- 黒毛和種去勢 **2,515円** (先月比 35↑)
- 乳用交雑種去勢 **1,411円** (先月比173↑)
- 黒毛和種雌 **2,287円** (先月比 41↓)
- 乳用交雑種雌 **1,197円** (先月比104↑)

肉牛市場〈黒毛和種251-300kg〉kg単価推移



肉牛市場〈F1〉kg単価推移



北海道冬季災害ゼロ てんとう防止運動



STOP! 転倒災害

運動期間：平成29年12月1日～平成30年3月31日

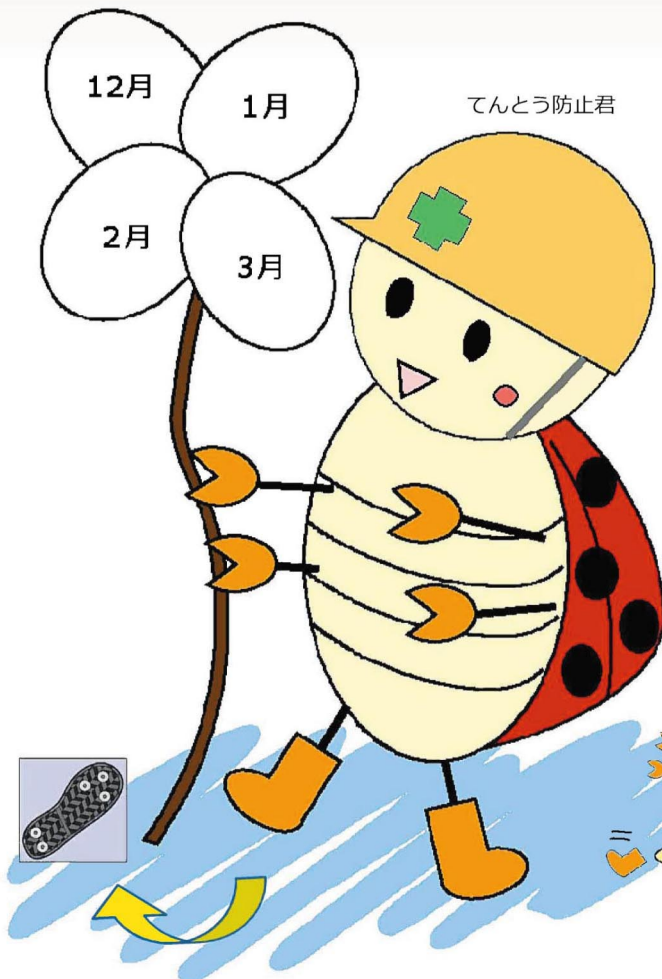
転倒災害ゼロを目指して取り組みましょう。

【運動の5Action】

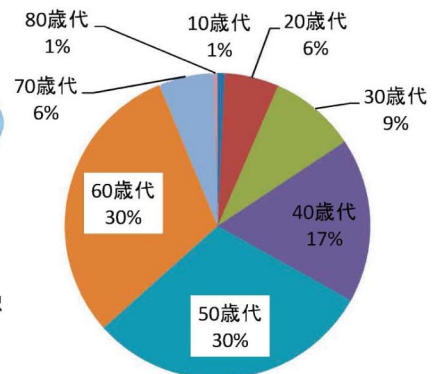
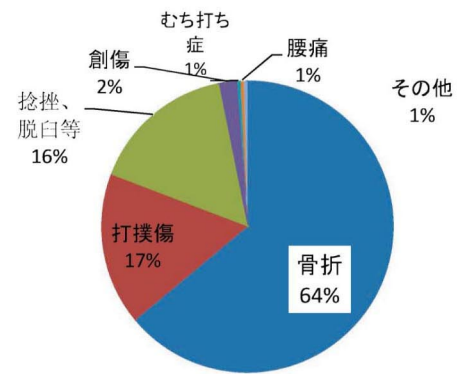
- 1 経営トップの転倒防止に取り組む意志表明
- 2 安全担当責任者の職場巡視の実施
- 3 4S（5S）活動の実施、危険予知活動や冬季危険ヒヤリマップ作成の推進
- 4 危ない！と感じた場所の情報集約（ヒヤリハット報告など）
- 5 転倒の危険がある場所の改善

咲かせよう！
「安全」のクローバー

災害ゼロを達成したら、達成月の葉を塗りつぶし、すべての葉が緑色になるように取り組みましょう！



転倒災害発生状況



資料：労働者死傷病報告（休業4日以上）による



厚生労働省北海道労働局

各労働基準監督署（支署）